



人権について学び

「人権を考える会」でより確かに

全校生で歌い、保護者や来賓の方々の参加制限なく実施する「人権を考える会」を4年ぶりに行うことを予定しています。

全校生が心を一つにした手話『君をのせて』では、手話コーラス隊に立候補し、毎日練習している子どもたちから、伸びやかで温かさを感じる手話が披露されます。

もちろん手話は音の聞こえにくい人とも話ができるための一つの手段ですが、詩の内容を伝える表現に、参加者全員が気持ち一つにまとめる力を、練習の様子からも感じています。



各学年からの人権学習の発表を通して鶴尾小教育の、1年生から6年生までの積み上げを、そして子どもたちの成長を保護者や地域の方々にも感じていただければと思います。

鶴尾っ子に「言える子」が

育ってきています

「人権を考える会」の学年発表に対して、大勢の子どもたちが感想を言う時間を設けています。5年生の宿泊学習や、6年生の修学旅行では、講師の先生に的確に感想を発表する姿がありました。

「言える子」は、本校の『よい子の児童像』として「感じる子」や「助け合う子」とともに重視している子どもの姿です。友だちの発表を「感じて」、自分の感想を「言える」子が、たくさん育ってきています。

表現力もついてきた

— 作品のレベルが上がってきた —

文化センターの文化祭で、かつて鶴尾小で勤務した3人の先輩教員が、偶然にも全く同じ感想を伝えてくれました。「子どもたちの作品のレベルがあがってきましたね。」と三つのです。

上天神と田村の両センターの文化祭は、鶴尾っ子のよさと、鶴尾小学校の教育力を発信する場とも考えて、準備をしています。田村文化センターには、2023人の来館者があつたそうです。鶴尾っ子のがんばりが大勢の参加者に伝わったことだと思います。

(写真は笑顔で鶴尾っ子の作品に見入る高松市教委教育長)



研究会について紹介します

木曜日に午前授業になることが多い「研究会」、特に春と秋にたくさん行われます。高松、あるいは香川県中の教職員が集まって授業参観や討議、また講演会などを通して、専門性を高めることを目的としたものです。「コロナ禍には、中止になることも多かったのですが、今年度はほぼ全てが復活しました。鶴尾小からも特別支援教育全国大会をはじめ、たくさんの発表を行い、教育力の発信をしてきたところです。ご理解をいただけましたらありがたいです。



「いつでもカンゲン」

半数近くの申込が

携帯型の「KanGenステップ」学習の端末「どこでもカンゲン」を申し込んだ児童数の割合が、全校生の4割を超えました。子どもたちの学習意欲が向上しているパロメーターの一つとして喜んでいきます。

「鶴尾小の子どもたちの意欲が、学校全体で有意に上がった事実を必ず論文にし、文科省や全国にモデル実践としてアピールしていきます。」とは、連携して実践研究している岡山山大学大学院の寺澤先生の言葉です。

学力を高めてきた鶴尾っ子のことが全国発信される日が近いようです。



【1年生：どこでもカンゲン】

